

会 師 市 小 牧 苦
 師 醫
 高 木 一

糖 尿 病

みなさんの中には職場の検診、就職のとき、思いがけなく尿に糖出ているといわれた方が、かなり多いと思われる。糖尿病は文明病の一つで、生活様式が都市化して、多く食べ、運動不足になると起こってくる病気です。尿に糖が出るのはなぜかという、血糖が高くなるために尿に糖が出るのです。

尿は腎（じん）臓でつくられ

まず血糖検査を受けて

ます。腎臓は新陳代謝によってできた不必要なものを尿に溶かして体から排泄（はいせつ）する仕事をしています。

腎臓の動脈は次第に細くなつて毛細血管になります。それが網の目のように分かれ、直径〇・二ミリの球状（まり）のような球状になってポウマン囊（のう）という袋の中に入っています。これを腎糸球体とい

ます。この袋の中で血液中の不要なものがろ過され原尿となるものですが、ろ過された原尿はポウマン囊を出て尿細管を通じて流れ腎盂という尿の集まる個所に到達します。

尿細管には水分をもう一度血液の中に吸収する働きがあり、これを再吸収といいますが、ブドウ糖でも同じことが起こり、糸球体では血液中ブドウ糖がすべ

てろ過されてしまいます。そして尿細管を通るときに、再吸収されて、再び血液の中に戻ります。

この再吸収があるため普通は尿に糖が出ないのですが、糖尿病では血液の中にたくさんブドウ糖が含まれているので、尿細管を通り過ぎる間に全部のブドウ糖を再吸収することができません。そのため吸収しきれな

ったブドウ糖が尿に現れるのです。一般に尿に糖が現れるときは血糖が一七〇ミリ以上になっています。血糖がそれ以上にになると尿糖が出る血糖の値を腎の糖排泄閾（いき）値といいますが、

この閾値が低く血糖が一五〇ミリ以下でも尿に糖が出る人があります。これを腎性糖尿といいますが、これは血糖が正常ですから、糖尿病ではありません。したがって食事療法をすることも薬をのむこともありません。尿に糖があるときは、糖尿病なのかどうか血糖検査を受けて調べてもらうことが必要です。

